智弁和歌山が優勝

田辺工 準決勝で涙

第97回全国高校野球選手権

全国高校野球選手権和歌山大会は26日、和歌山市の紀三井寺球場で決勝があり、智弁和歌山が和歌山商業に2−0で勝利。3年ぶりの甲子園出場を決めた。紀南勢で唯一残っていた田辺工業は、準決勝（25日）で和歌山商業に0−15で敗れた。

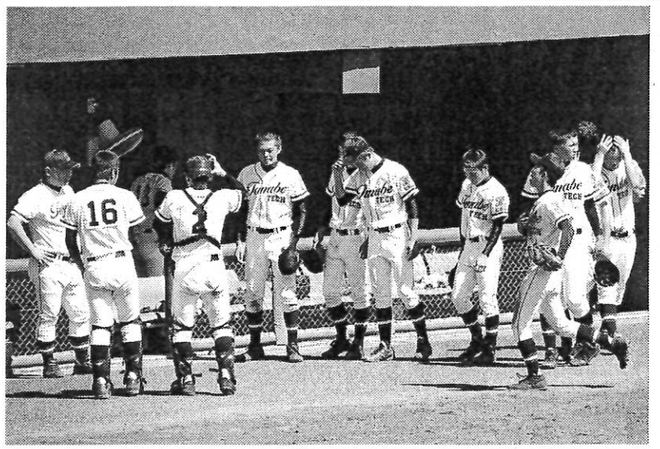
【25日】（一部既報）

㊐準決勝第1試合
智弁和歌山6−1箕島

㊐準決勝第2試合
田辺工業 000 000 000 0
和歌山商業 231 321 30× 15

㊐決勝
和歌山商業 000 000 000 0
智弁和歌山 000 100 01× 2

（和）池尻、西口、田嶋―山口▽本塁打＝田嶋、奥村（和）▽二塁打＝田嶋、山本（和）



田辺工業－和歌山商業　攻撃前にベンチで円陣を組む田辺工業ナイン
（和歌山市の紀三井寺球場で）

田辺工業の稲垣友輔監督は「序盤で得点できず、逆にミスから相手に得点を許したのが大きかった」と試合後に語った。失点に直接つながった失策が三つ。守備の乱れが影響したのか、攻撃では走者を出したが、決定打を欠いた。

決勝進出はならなかったものの、21年ぶりの4強入り。3年の小池知弥主将は「正直、ここまで来られるとは思っていなかった。試合を重ねるごとに成長できたと思うし、周囲も『頑張って』と声を掛けてくれた。和歌山商業は強かったけど、力は出し切ったから悔いはない」と話した。

田辺工業	打	安	点
[中] 岡田	4	3	0
[一] 柏木	1	0	0
投 中瀬	0	0	0
打 柴田	1	0	0
三 杉山	1	0	0
[三]投 大和	4	1	0
[投]遊 那須	4	0	0
[右] 小池	4	2	0
[左] 前田	3	0	0
[遊]二 田上	2	1	0
走 大江	0	0	0
[二]一 湯川	3	0	0
[捕] 畠中	4	0	0
振 球 犠 併 残			
8 5 2 0 11	31	7	0

和歌山商業	打	安	点
[中] 吉田	4	2	0
[遊] 山本	4	2	1
[一] 大谷	4	2	4
[三]投 田嶋	5	4	4
[右] 野嶋	5	2	1
[二]三 奥畑	4	0	0
[捕] 山口	2	1	0
[左] 羽田野	2	1	0
打 柑本	1	0	0
走 左 甘木	1	0	0
[投] 池尻	2	0	0
打 奥村	1	1	2
投 西口	0	0	0
打 二 山田	1	0	0
振 球 犠 併 残			
2 6 3 2 6	36	15	12

投手	回	安	責
那須	3⅔	8	5
中瀬	2⅓	4	3
大和	2	3	0
池尻	5	3	0
西口	3	3	0
田嶋	1	1	0

白球

田辺工業

走者を背負いながらも、力投するエースの那須悠哉

『絶対、諦めない』

「球が走らない。ストライクが入らない」。エースの那須悠哉（3年）は立ち上がりから苦しんでいた。

冬の間、タイヤを引いて坂道ダッシュを繰り返し、足腰を強化した。そのかいあって、球速は上がり、制球も安定した。そして臨んだ今大会では、準々決勝まで全4戦に登板。3戦を完投した。田辺工業初の決勝進出を懸けた試合。緊張や気負いはなかったが、「連投の疲れがたまっていたのかもしれない」という。

投球練習から速球が高めに浮くのが気になった。それが試合にそのまま出てしまった。3回まで毎回、四球などで先頭打者を出塁させると、安打に味方の失策も重なり、大量点を奪われた。

「チームに影響したらいけないから」。どんなピンチでもポーカーフェイスを貫いていた。しかし「こんなに攻められたことは今までなかった」。普段、冷静な那須も、動揺を隠せなかった。

4回、和商の4番・田嶋にレフトスタンドへの2点本塁打を浴びた。「頭が真っ白」。那須は打球が落ちた先をぼうぜんと見つめた。マウンドを譲った後も、和商打線は止まらず、7回まで毎回得点の0−15。

しかし、決して望みは捨てない。兄の佑貴（19）は2年前の南部の正選手。決勝で箕島に9点差をつけられながら、二塁打を放つなど「諦めない気持ち」を教わった。

そして最終回も粘りを見せ、2死一、三塁の好機。打席は次の次。準備はしていたが回ってこなかった。

「後輩には、僕らを越えてほしい」。諦めない気持ちは、これからも受け継がれる。（敬称略）